

こころ育てる絵本との出会い

マウちゃん通信

2019 12 - 2020 1 vol. 59

絵本作家インタビュー 宮西達也

特集 くだものの絵本
ふたつ



みやにし たつや
宮西達也



やさしさと
思いやりのある絵本を
一冊でも多く作りたい

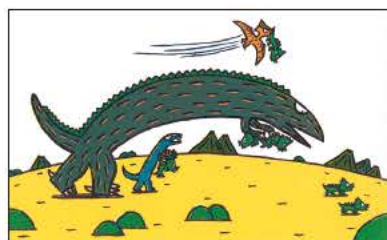
宮西達也(みやにし たつや)プロフィール

1956年静岡県生まれ。日本大学芸術学部美術学科卒業。

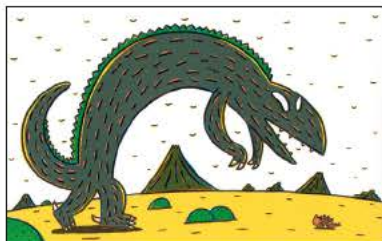
心に深く響く物語と、ユーモアあふれる魅力的なキャラクター、独特の色使いで多くのファンを魅了する絵本作家。作品に、劇場映画化もされ、けんぶち絵本の里大賞を受賞した「おまえうまそうだな」に始まる「ティラノサウルス」シリーズ(ポプラ社)、「おとうさんはウルトラマン」シリーズ(学習研究社)、『うんこ』(けんぶち絵本の里大賞びばからす賞)『にゃーご』『きょうはなんてうんがいいんだろう』(講談社出版文化賞絵本賞/すべて鈴木出版)、『ふしぎなキャンディーやさん』(日本絵本賞読者賞/金の星社)、『まねしんぼう』(岩崎書店)など多数の人気作品がある。

ティラノサウルス展開催

令和元年11月23日(祝・土)～令和2年1月26日(日)



『おまえうまそうだな』
(ポプラ社)
アンキロサウルスのあかちゃんかとぼとぼ歩いていると、「ひひひひ…おまえうまそうだな」、ティラノサウルスが飛びかかろうとしました。その時「おとうさーん!」アンキロサウルスはティラノサウルスにしがみついたのです。



展
示
絵
本

冬のギャラリーでは、シリーズ15冊を数える「ティラノサウルス」シリーズより、1作目の『おまえうまそうだな』と最新作『キラキラッとほしがかがやきました』の2冊をご紹介します。

宮西達也先生に インタビュ



絵本作家になられたきっかけは？

イラストレーターになろうと思っていた時、最初に作った絵本を本屋さんで子供や大人がニコニコ嬉しそうに見ている、絵本の力はすごいと思ったから。

画材は何を使っていますか？

水彩絵具やクーピーペンシル、それからアクリル絵具。コンピュータも使います。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『おまえうまそうだな』

世の中で一番大切なものはなんだろう？ そんな一冊を作りたいと思ってできたのが、この絵本です。ラフができあがった時、自分は天才だーと思いました(笑)。

『キラキラッとほしがかがやきました』

『ティラノサウルス』シリーズを、恐竜と山と星と草と木と海と岩だけで15冊も作ってきました。よくここまで書いてこれたなあ

感心します(笑)。これも編集の「なみさきひろよ」さんのおかげです。そして、読者のみなさんのおかげです。感謝！

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

どの本も、真っ白なところから作ってきた。なのでどの本も子供のように思っています。すべての本が可愛いです。一番二番の順位がつけられないのです。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

いつも、やさしさと思いやりのあるものを作りたいと願っています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

絵本は僕にとって絵日記のようなものです。自分が感じたこと、思っていることを書いています。だから、誰かに何かを伝えたいと強く思っていることはないです。

今後どのような絵本を描いていきますか？

これからも『宮西さんらしいね』という本を作っていきます。一冊でも多く作らせてもらえたらうれしいです。

ご趣味についてお聞かせください。

趣味はいろいろあります。釣り。映画や舞台、ミュージカル鑑賞。旅行。アウトドア。サイクリング。今は一つもできません(涙)。なのであと少ししたら仕事をグリーンと減らして、自分の時間をたくさんにして、やりたい趣味を全部やってみたいです。

好きな言葉を教えてください。

一生懸命。そして

When it is dark enough,

you can see the stars.

(どんなに暗くても、星は輝いている)

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

僕の本を読んでくださり、ありがとうございます。ただただ感謝です。



宮西達也先生、ありがとうございました！

宮西達也先生のサイン入り 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
宮西達也 サイン本プレゼント係
締め切り 令和2年2月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



「キラキラッとほしがかがやきました」(ポプラ社)

『キラキラッとほしがかがやきました』(ポプラ社) 嫌われ者のタベヤラ、マシアカサウルス、ティラノサウルスは、いつも一緒。ある日、大きな地震が起きて、山がくずれました。絶体絶命のティラノサウルスを、タベヤラもマシアカサウルスも見捨てて逃げたが…。





松崎 訓子

富山市立図書館よみかぜの会代表
水曜日文庫主宰

特集 / くだものの絵本 ふたつ

改めて気づいた『くだもの』の深い味

幼い子どもに読んであげる絵本の定番ともいえる平山和子作の『くだもの』(福音館書店)「みずみずしくおいしそうな果物が、やさしい手で」「さあ、どうぞ」とさしだされる。親子サークルや保育園でよく、いつも子どもが手を伸ばしたり絵本の前に寄ってきたりして食べていく。子どもの反応が直に見えるので読み手としても楽しい本だ。

でも、先日の親子サークルでは、新しく出た絵本にしようと『くだもの ぱくっ』(彦坂有紀、もりといずみ 講談社2018年)をよんでみることにした。この二人の絵本は、パンやケーキなど食べ物テーマにしたものが毎年出版されている。でてるものは本当にいいし、浮世絵版の技法で描かれた絵は柔らかな色合いで美しく、うっすら見える木目がまたいい。この『くだもの ぱくっ』の絵も、リアルでおいしそう。巨峰、マンゴー、メロンなど出てくる果物は今どきの果物事情を反映しているが、やっぱり子どもたちが食べに来るだろうな、などと思う。『くだもの』と同様に繰り返しの展開だから、幼い子どももよわかって楽しむことだろう。

さて実際によんでみてどうだったかは、ほぼ予想どおり。子どもたちは果物の名を嬉しそうに叫び、おかあさんと一緒に食べたり絵本の前にやってきて手を伸ばして食べたりのだから。ひとまずは平山さ

んの『くだもの』の時と同じだ。

二つの絵本は、果物が出てきて食べての繰り返しで、同じように子どもたちを楽しませる。だが、何度かよむうちに、なぜか『くだもの ぱくっ』はもの足りないような気がしてきた。どうして?

あらためて『くだもの』を読み直す。出てくる果物はランダムに並べられたのではない。初夏のさくらんぼに始まり、すいか、もも、ぶどう、なし、りんご、くり、かき、みかん、いちご……と季節を追っている。そして最後はバナナだが、これは皮をむかずにさしだされる。それまでは、洗って、切って、皮をむいて、もう食べるだけの状態でさしだされていたのに。「バナナのかむけるかな」と問いかげがあった後、女の子が半分皮をむいたバナナを持ってにっこりしている絵とともに「じょうずにむけたね」という言葉が添えられる。そう、季節の移ろい、時間の経過とともに子どもは成長したのだ。どうぞとさしだす手が描かれていることで、子どもの成長を見守る大人の愛情も感じられる。

この絵本が長く愛されてきたのも道理。単純にみえて、そうではない。

私のおすすめ絵本

『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ウィリアム・スタイグ/作
せたいじ/訳
評論社

願いのかなう魔法の小石のせいで岩になってしまったシルベスターの運命は?季節の移ろいと情景、各登場人物の心情もごとに描いています。



『こいぬがうまれるよ』

ジョアンナ・コール/文
ジェローム・ウェクスラー/写真
つばいいづみ/訳
福音館書店

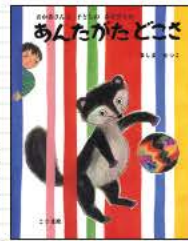
白黒の写真による科学絵本。子犬の誕生の瞬間もリアルですが生々しくありません。子犬を抱っこしたくなります。



『あんたがたどこさ』

ましませつこ/作
こぐま社

わらべうたの絵本。美しくあたたかな絵で遊び方がわかり楽譜も添えてあるので、すぐに子どもと遊んで楽しめます。



『にぐるまひいて』

ドナルド・ホール/文
バーバラ・クーニー/絵
もきかず/訳
ほるぷ出版

秋になると読みたいくなる美しい絵本。描かれているのは19世紀初頭のアメリカ東部の農家の、1年間の暮らし。家族全員でいろいろな物を作りだし全部売ってしまうことに、わが娘はびっくりしていました。



『ふくろうくん』

アーノルド・ローベル/作
三木 卓/訳
文化出版局

哲学的な?ふくろうくんに魅了されるでしょう。ぜひ、声に出して読んでみて下さいね。ほんとにおかしいです。



『こねこのびうち』

ハンス・フィッシャー/文・絵
石井桃子/訳
岩波書店

リズムカルな絵のタッチ、自在な線がなんとも魅力的。絵の細部も面白く、わが子とさんさん楽しんで本です。

